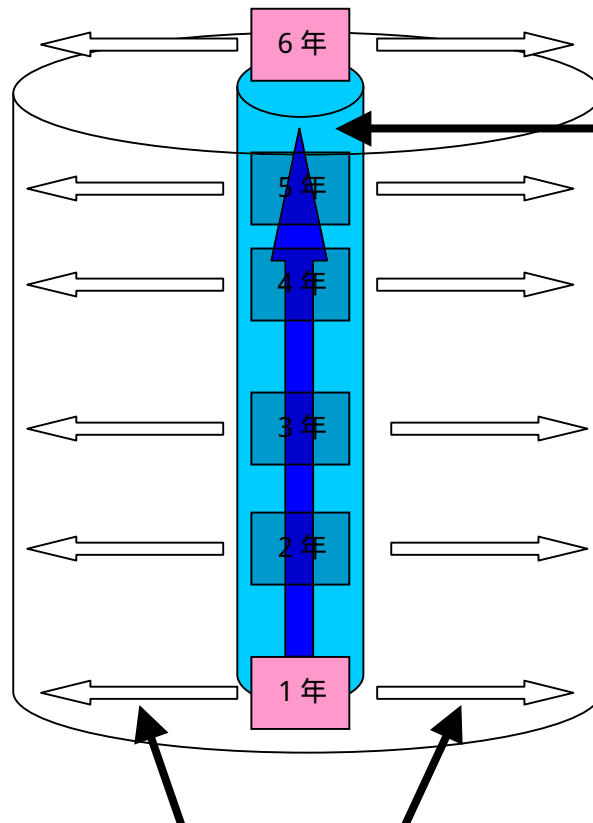


学力差にどう対応するか？

授業全体の構想



基礎・基本
最低基準
指導要領の内容
教科書

理解の早い子どもは、「理解の幅」を広げる。

「理解の幅」を広げるための手立て

授業の中の自力解決の場面

- ・個別指導ができる。
- ・多様な考え方を見つけさせる。 問題を多面的に見ることができる。
問題を深く読み取ることができる。
- ・説明の方法を考えさせる。 人に伝えることで、深く理解できる。
「わかりやすく」「簡潔に」「説明の順序を考えて」など

授業の中の学び合い(説明)の場面で

- ・友だちの説明の補足説明をさせる。
- ・それぞれの説明の比較をさせる。

学力差があるのが当たり前。

学力差があることを前提に授業を構築しなければならない。
一斉指導の中にいかに個別指導を取り入れていくか。

定着を図るための練習の場面で

- ・同じような問題を数多くする。
- ・同じような問題を作問する。 ・友だちと交換して問題を解く。
- ・発展的な問題をする。
- ・発展的な問題を作問する。 ・友だちと交換して問題を解く。

発展的な問題 = 理解の幅を広げた問題